

Department of Urban
東京大学大学院

東京大学

Engineering, the University of Tokyo
工学系研究科

都市工学専攻

工学部

都市工学科

Urban Planning Course

都市計画コース

Urban Environmental Engineering Course

都市環境工学コース

都市工学科の沿革と特色

都市工学科は、都市の時代の始まりである高度経済成長期の社会的要請に応えるために1962年に設立され、その後、都市や環境をめぐる課題の変化に柔軟に対応してきた学科です。1966年には第1回卒業生を輩出し、同年、大学院修士課程が、1968年には博士課程が開設され今日に至っています。この間約3000名の卒業生を送りだし、多くは、省庁、自治体、独立行政法人、建設、不動産、商社、金融、保険、製造業、コンサルタント等多様な分野で専門を活かしながら活躍しています。大学院に進学する学生も多く、学部卒業生と同様の分野の他、大学や研究所等で活躍しています。自治体の首長や助役として活躍する卒業生が増えつつあることも近年の特徴です。

都市工学科には、都市計画コースと都市環境工学コースとがあり、それぞれが環境問題や都市問題を解明するための専門的カリキュラムを組んでいます。都市工学科設立の目的は、都市のフィジカルプランナー(すなわち物的・空間的存在によって形成される諸環境の計画とデザインを行う者)の教育・養成、ならびに都市問題に対処する工学的研究・教育にあり、その対象領域は都市を中心としながらも、都市的生活領域の拡大や全地球的都市化にともない、農山漁村を含む地方圏や国土全体、さらには地球環境全体におよびます。また、工学技術にその基盤を置くことは当然ですが、工学部の中では、法学、経済学、社会学、歴史学、心理学、美学、哲学など社会科学・人文科学と密接な関係にある専門分野です。

都市工学科の学習課程

■学習の特性

本学科は、都市計画コースと都市環境工学コースで構成されています。両コースともに、国土や地方圏、都市全体、都市を構成する地区、さらには各種都市施設などを対象とした調査・分析、計画立案、設計・実現の各局面において能力を発揮できるような専門家を養成することを目的としています。このような学科の性格から、当学科のカリキュラムは午後の多くの時間をさいて、演習と実験に充てています。当学科は、学生が、これらの時間を有意義に用いることを通じて、単に与えられた課題を解くのではなく、自らの観点から都市を眺め、課題を発見し、これに対処する能力を開発することを期待しています。

■カリキュラムの特徴

都市計画と都市環境工学の専門的領域と都市工学的な課題全般をカバーしています。都市問題の多様化に対応し、都市とその環境を中心に、国土全体から農山漁村を含む地方圏まで、土地利用、交通、空間、防災、地球環境、水環境、廃棄物などの分野で、調査・解析、計画、都市デザイン、手法、技術について幅広い授業を行っています。

演習中心のカリキュラムで現実の課題に取り組み、自らの考えで都市を捉え構想する力を養います。知識、体験、計画・デザインの基本スキルを獲得し、新しい問題に対応できる豊かな発想を育成します。

また、都市工学は経済、法律、社会、歴史など社会人文科学とも密接な関係にあるため、必修科目の設定を最低限にして、他学部聴講も含め学生の関心や意欲に沿った柔軟な履修を可能としています。

■都市工学科の国際的活動

都市工学科は、社会とのつながりを重視し、社会に貢献する学術を大切に育成・発展させるとともに、学術分野での世界最高峰を目指しています。教員・学生ともに諸外国をフィールドとした研究を進めており、卒論のために数か月外国に滞在して研究を行う学生も少なくありません。外国人の教員も学科に加わっています。また、大学院における留学生教育に力を注いでいるのも都市工学科の特徴です。特に博士課程においては全大学院生の約半数が留学生によって占められ、また研究生として滞在している留学生も多いです。出身国はさまざま、東アジア、東南アジア各国はもちろん、中東、ヨーロッパ、北米、南米などに広がっています。これらの留学生に対しては英語による講義と研究指導が行われています。

都市計画の分野では、人の暮らしをより豊かなものにするための方法や技術を研究、開発、提案、実践しています。1991年に都市工学科の呼びかけで創設されたAsian Planning Schools Associationは、アジア各地で二年に一度の国際シンポジウムを開催しています。近年では、台北やバンコクでの国際学生ワークショップ、トリノ工科大学やジョージア工科大学との協働研究、教育交流を行っています。都市環境工学の分野では、人の健康保護と生活環境や地球環境の保全に関連する技術開発や実態調査・現象解明、社会システムの立案や評価、人材育成や教育手法の開発など、多岐にわたって国際的な連携を進めています。2003年より東南アジア水環境国際シンポジウムを東南アジア各国で主催し、その成果は"Southeast Asian Water Environment"シリーズとして出版されています。



イタリア・トリノ工科大学との縮小都市に関する協働研究



フィリピン離島地域における集落規模水供給システムの開発

大学院：都市工学専攻

都市工学に関する体系的な知識とその応用技術を身につけ、都市計画、都市デザイン、都市交通計画、都市解析、環境デザイン、都市環境工学、都市水システム、国際都市環境、都市マネジメントなどに関する専門家として活躍できる人材を育成し、地域の気候風土・社会文化の多様性を踏まえ、グローバルな視点から国土及び地域社会の健全な発展に貢献することを教育研究上の目的としています。

東大まちづくり大学院

工学系研究科 都市工学専攻
都市持続再生学コース 社会人向け修士課程

社会人向けの大学院修士課程で、東京大学大学院工学系研究科の都市工学専攻、社会基盤学専攻、建築学専攻の3専攻がサポートします。まちづくりに関連する広い分野の実務経験者を対象に、総合的な教育を行い、まちづくりの現場において中心となって活躍する高度な知識を持った専門家を養成することを目的としており、国内に類例のないプログラムです。

都市工学科は東京大学で唯一、「都市」について専門的、総合的に教育、研究している学科です。都市を支える「都市環境工学」と都市を構想する「都市計画」の2つのコースで構成され、分野別の「専門講義」と分野統合の「総合演習」で、体系的な知識と技術を身に付けることによって、皆で集まって暮らすかたち＝「都市」を考え、皆でつくりだすこの「社会」の全体像を見ることができるようになります。都市工学科では、都市の「スペシャリスト」から社会の「ジェネラリスト」まで、幅広い人材を育成するための教育課程を提供しています。

都市環境工学

都市を支える

分野統合の総合演習

環境計画基礎演習 / 都市工学演習

数理モデル / 自然現象と都市活動のモデル化
汚濁解析 / 環境インフラの計画・設計
リスク評価 / 環境政策
環境アセスメント / 生態影響評価

持続可能で安全・快適な都市
のための環境計画と技術開発

環境工学実験演習

都市環境改善効果 / 水処理装置の運転
大気・土壌汚染調査 / 河川の実態把握
環境汚染物質の排出インベントリ
環境分析技術

認識力
問題を的確に捉える
分析力
環境を分析・評価する
着想力
知識を応用し新技術を開発する
提示力
情報を正しく適切に伝える

■都市環境工学系講義

アジア都市環境保健学 E / 環境解析特論 E / 環境管理
適正技術論 E※ / 環境工学研究 / 環境工学実験演習特
論 E※ / 環境工学特別演習 / 環境水質工学特論 E※ /
環境制御プロセス設計 / 環境生態毒性学 / 環境反応速
度論 E / 環境微生物工学特論 E / 環境微生物生態解析 /
環境フィールド演習 E / 環境リスク制御論 E / 健康関
連微生物特論 E / 循環型社会とリサイクルシステム E /
水質汚濁制御基礎 E / 地球及び都市環境マネジメント
E / 都市水害とリスク管理 E / 都市水システム E / 水環
境管理技術特論 / 水環境特論 E / 有害物質管理論 E※ /
都市環境プロジェクトの最前線 E / 都市水システムマ
ネジメント E / 国際社会空間マネジメント実習
E : 英語での開講科目 E※ : 英語・日本語両方で開講科目

水質を把握し、改善する技術	環境水質化学		水質変換工学	
微生物、生態系の機能を知る		環境微生物学 / 生態学・生態工学		
生物も物質も流れの場に存在する		応用水理学		
環境を理解し、数値的に解析する	2	環境反応論	3	環境システム解析
水と大気の現象を知る		水環境学	3	
都市生活の重要なインフラ			上下水道システム / 廃棄物資源循環学	
人の健康と生活環境の保全	環境公衆衛生		産業・生活と環境技術	国際環境公衆衛生
環境問題を俯瞰する広い視点	都市環境概論 / 地球環境工学			
数理の基礎を身に付ける	社会調査法 / 基礎統計	都市工学数理 / 応用統計		
都市の現場で学ぶ		都市工学の技術と倫理 / 都市工学実習		
都市と生活を科学せよ！	都市情報科学概論	情報学概論		都市解析 / まちづくりと情報
交通を予測し、計画する	都市交通論	都市交通システム計画		
安全安心を学問する			都市安全計画	
都市の基本は住宅とアメニティ	都市居住概論	都市住宅論		
都市から地区までの計画技法	都市計画概論 / 緑地計画概論	土地利用計画論	まちづくり論	地区の計画とデザイン / 現代ツーリズム論
創造と保全がデザインの両輪	都市デザイン概論		都市開発プロジェクト論 / 都市計画史	
広域、国土、世界へ広がる		広域計画	Introduction to Sustainable Urban Engineering	
経済、法律、社会を知る		都市まちづくりと法	都市経済	都市社会論

都市水システム研究室
地域循環共生システム研究室
水環境制御研究室
環境質リスク管理研究室
都市サステナビリティ学研究室
社会生態システム研究室(旧:環境微生物機能研究室)
都市衛生工学研究室
下水道システムイノベーション研究室
国際下水疫学研究室

大学院工学系研究科 都市工学専攻

都市計画研究室
都市デザイン研究室
住宅・都市解析研究室
都市情報・安全システム研究室
国際都市計画・地域計画研究室
都市交通研究室
環境デザイン研究室
空間デザイン研究室
まちづくり研究室
生産技術研究所 加藤孝明研究室

認識力
まちを調べる
分析力
まちを分析・評価する
構想力
都市の将来を構想する
創造力
空間をデザインする

■共通の講義

研究プロポーザル作成技法 / 都市工学特別実習 /
都市工学特別論議

■都市計画系講義

空間計画理論 / 広域計画特論 / 住環境特論 E / 地域安
全システム学 / 地域計画論 E / 地域政策論 E / 都市解
析特論 E※ / 都市居住特論 / 都市空間論 E / 都市計画
研究 / 都市計画特別演習 / 都市計画特論 / 都市計画
論 E / 都市工学特論 / 都市交通計画特論 / 交通行動分
析特論 E / 都市交通政策特論 E / 都市住宅特論 / 都市
設計特論 / 都市プロジェクト演習 / 都市防災特論 /
復興デザイン学 / 復興デザイン研究コロキウム / 復
興デザインスタジオ / 緑地計画特論 E / 世界の都市計
画 E / 復興デザイン実践学社会接続演習
E : 英語での開講科目 E※ : 英語・日本語両方で開講科目

分野別の
専門講義

卒業
研究

分野統合の総合演習

都市工学設計製図 / 都市工学演習

建築、街区から都市、そして広域へ
多様なスケールに対応する計画技法

都市計画

都市を構想する

建 築	2A 心地よい都市空間			
街 区	2A 都市設計の基礎	3S 地区開発計画		
地 区	2A 都市解析の基礎	3S 地区の実態認識と評価		4S 都市中心部の計画、地区の計画とデザイン
都 市			3A 都市圏の計画 I	
広 域			3A 都市圏の計画 II	

学生生活



環境分析技術の習得



震災被災地の見学



地域の方々の前での発表



設計課題で模型を製作



環境関連施設の見学



河川流域環境の評価と計画

※講義、演習は今後変更される可能性があります。

都市計画コースでは、時代とともに変化する都市の状況と課題に対応して、工学技術にその基盤を置きつつ、社会科学・人文科学の研究アプローチも援用しながら、多角的観点から研究を進めています。都市や都市を取り巻く農山漁村を含め、人間が生きる生活空間を、どう作り、維持管理・改善していくのか。国土全体としての空間や都市そのものに関わる問題を幅広い視点で総合的に研究します。
都市形成の仕組みや都市空間デザイン、自然との共生に関わる環境デザイン、広域圏の大規模な計画から都市・地区レベルでの計画立案手法、都市の安全に関わる計画・対策、住宅問題・住宅政策、都市交通計画、都市空間に関わる人間行動の解析手法などを講義や演習を通じて理解します。

■都市計画研究室

人口減少・超高齢社会への適応、環境負荷の低減、防災・減災といった課題に、都市や都市を超えて広がる生活空間の形成と維持管理を通じて取り組む方法を探究しています。都市の空間像の構想と実現方策の検討、土地利用・都市形態の変容過程とそれへの効果的介入、産官民協働の都市形成管理手法、これらに必要な都市情報の収集・処理・表現方法等が主な関心領域です。



■自治体の土地利用計画の検討



■インフィル型アーバンビレッジの形成

■都市デザイン研究室

都市空間の意図を読み解き、持続的な魅力ある暮らしの場を実現する「研究」と「実践」に取り組んでいます。「研究」では、各自が自分のテーマを選びます。「実践」では、日本の大都市から海外の小さな集落まで、様々な地域社会の住民や自治体の方々と協働しながら、綿密な調査をふまえた実験や提案をします。「研究」と「実践」の深い呼応が重要だと考えています。



■模型を囲んで議論するワークショップ



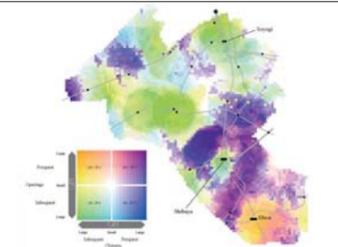
■具体の都市空間の設計

■住宅・都市解析研究室

都市住宅と都市解析を研究の2つの柱としながら、住宅市場や居住者の意識などの住宅、居住に関する事象や、都市現象の空間的特性、時間的変化を研究対象としています。例えば、歩行を促す住環境、人口減少時代における都市施設の適正配置、都市の景観評価等が挙げられます。客観性のある研究成果に基づき、新たに見つかった因果関係の指摘、都市変容の将来予測、都市や住宅の政策評価や提言を行っています。



■団地居住者の居場所づくり支援



■渋谷区における飲食店の出退店頻度

■都市情報・安全システム研究室

安全・安心という視点から望ましい都市・地域を創るための研究を行っています。社会調査、実験、数理モデル、シミュレーション、合意形成、情報技術など研究に役立つ方法論は何でも使いつつ、隠された都市のリスクを探し、「よい」都市の理想像を考え、人間行動を踏まえて、望ましい都市を実現するための仕組みを提案しています。



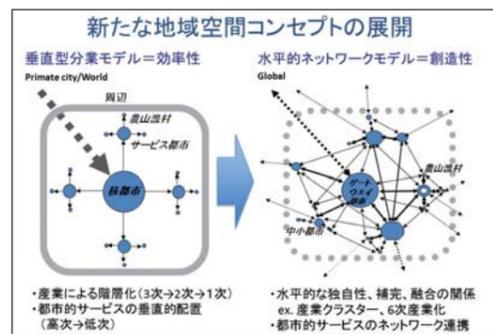
■災害調査



■大都市災害時の避難シミュレーション

■国際都市計画・地域計画研究室

国際都市計画・地域計画研究室では、計画制度・計画課題等の実証分析、アジア等の発展途上国大都市における都市化過程の制御と整備手法に関する研究、エネルギー消費の削減モデル等環境問題の研究、人口減少および都市縮小局面のプランニング、その他幅広い切り口から、都市に関連する研究を総合的かつ実証的に行っています。



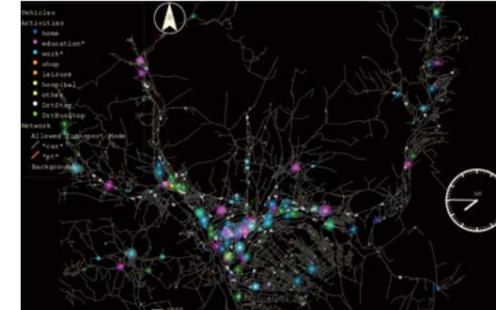
■新たな地域空間コンセプトの提案



■インドの農村集落におけるNGO活動の調査

■都市交通研究室

都市における交通とその計画について研究しています。特に、時代の要請に応えつつ人の生活をよりよく支える都市と交通の姿を探求し、その実現へ貢献することに重点を置いています。人の活動と行動をより深く理解する調査・分析手法、価値創造型の交通まちづくり、持続可能な都市を目指した土地利用・交通戦略と計画制度、新しいモビリティの可能性などがテーマです。



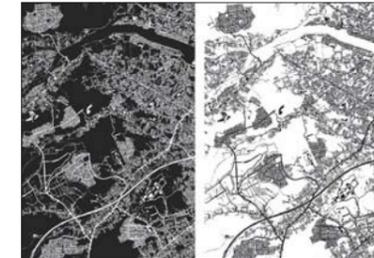
■シェアリング・自動運転時代を見据えた交通シミュレーション



■まちなかの回遊性を高める交通システム

■環境デザイン研究室

ルビンの壺というだまし絵がある。図として描かれているのは壺だが、地に注目すると、二人の人物が向き合っているように見える、あの絵だ。人口減少や超高齢化、経済停滞のなかで、今、都市が大きく様変わりしつつある。従来の都市計画が「図」を描くことに専心してきたとすれば、これからの都市計画は「地」をいかに描くかに腐心しなければならないのかもしれない。環境デザイン研は、みどりや環境を切り口に、「地」のデザインを考える。



■都市郊外部の「図」と「地」



■空閑地を活用したコミュニティガーデン(柏市カシノワ)

■空間デザイン研究室

様々なスケールの空間デザインに関わる研究と実践を進めています。特に公共空間のデザイン・マネジメントに関する研究や、Society5.0の考え方によるスマートシティのデザインに関する研究を進め、フィールドでの実践と方法論の探究の両面から持続可能な都市づくりに貢献することを目指しています。また、柏の葉アーバンデザインセンター(UDCK)の活動の中心的役割を担いながら、実践活動も推進しています。



■群化する東京の超高層開発の分析



■公・民・学連携のまちづくり拠点UDCK

■まちづくり研究室

自らコミュニティ再生やまちづくりに関わるプロジェクトをコーディネートしながら、実践研究を積み重ねています。コミュニティや「まち」の再生をめざした、デザイン、プランニングそしてマネジメントの、方法論や手法、それらを支える基礎理論について、さまざまなアプローチから探求し、実際のコミュニティ再生プロジェクトやまちづくりへの応用を進めています。



■対話の場「ふらっとく」の様子(長野県小布施町居住地区)



■郊外住宅地での空間調査(神奈川県川崎市麻生区)

■生産技術研究所 加藤孝明研究室

地域安全システム学という生研内専門領域名で研究室を主宰しています。①市街地の脆弱性・防災性の評価手法の構築、②まちづくりの現場における防災・減災まちづくりの実践、③復興準備に関する研究、及び、復興まちづくりの支援、④GIS、情報技術を用いた地域安全への貢献について研究しています。ハザードとして、地震だけではなく、気候変動をふまえた大規模水害も対象とし、外部組織との連携による産官学の共同研究、共同活動を行っています。

研究室紹介 都市環境工学コース

都市環境工学とは、安全かつ快適な都市環境あるいは生活環境を将来、世代を超えて創造していくために、適切な工学技術を開発して、それをどのように展開すべきかを提案する学問です。大量生産・大量消費の20世紀工業化社会の次に来る時代を担う統合型の工学体系です。その研究領域は、バイオテクノロジーから水供給システムや廃水・廃棄物処理システムなどの都市基盤を支えるシステム、さらには温暖化に代表される地球環境問題など多岐にわたります。

都市水システム研究室

都市水システム研究室では、人口減少社会においても、都市の水インフラのアセットマネジメントをつうじて適切な施設の更新を促し、将来にわたって安全・安心な水を安定して供給するための研究に取り組んでいます。また、新しい水処理技術の開発や、気候変動による都市水システムの脆弱性評価など、都市の水問題の解決に向けた研究を推進しています。さらに国内および海外の水供給に問題を抱える地域においては、水質調査や水利用状況の調査などの現地調査にも積極的に取り組んでいます。



タイ・チェンマイでの水利用調査



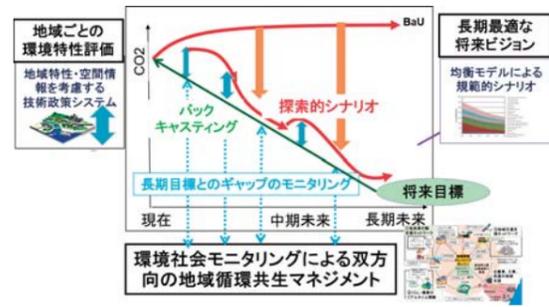
小笠原村での水質調査

地域循環共生システム研究室

都市には様々な人間活動が高密度に集積しています。従来型の環境汚染問題では、都市で営まれる活動がそこに住む人々の健康や生活環境に与える影響への関心が中心でしたが、今日では、地球規模の環境や未来世代の持続可能性も考慮して都市を環境の視点から再構築する、より広い視野が必要とされています。



都市資源の物質ストック分析



地域循環共生圏での社会連携研究インフラの将来可能性

水環境制御研究室

水環境制御研究室では、都市水環境の制御に関わる複合的な課題の解決に取り組んでいます。水道や下水道をはじめとする人工的な水循環系との関わりのなかで、水利用や水環境を総合的に捉えた研究を行っています。最近では、水処理プロセスにおける微生物機能や給配水システムにおける微生物群集の管理、水利用を考慮した水環境中の未規制微量有機物質の管理など、環境中や水システムの中での微生物生態系や溶存有機物構成を切り口とした研究課題に取り組んでいます。



河川における未規制汚染物質の調査



都市水環境・水利用の制御

環境質リスク管理研究室

人間活動に起因する環境質(水質、大気質、土壌質)の劣化がもたらす様々なリスクを総合的に管理するためには、全体を俯瞰して把握する総合化能力とともに、リスクを正しく評価し、リスクを合理的に低減する技術開発が必須です。当研究室では、汚染底質およびマイクロプラスチックの生態影響評価、環境DNA技術を用いた都市域生態系モニタリング、都市排水水質管理技術開発、下水処理の高度化およびエネルギー・資源効率化に寄与する次世代メンブレンバイオリアクターや微生物学的プロセス制御技術の開発を進めています。



底質汚染物質の分析と底生生物への影響評価

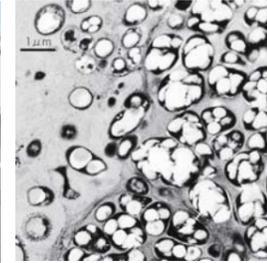


下水処理の高度化および徹底的効率化のためのメンブレンバイオリアクター技術開発

社会生態システム研究室(旧:環境微生物機能研究室)



環境・サステナビリティ教育(水保調査)



活性汚泥中の細菌が蓄えたPHA(細胞内の白く見える顆粒がPHA)

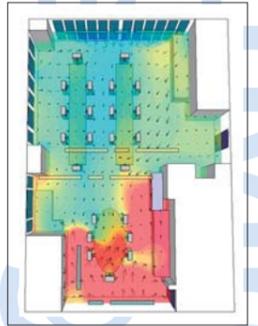
当研究室は組織上は新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻に所属し、柏キャンパスにあります。ポリリン酸蓄積細菌など有用な機能を持つ微生物の働きを活かし、下水処理の性能向上や水環境の改善に結びつけようという方向の研究に端を発し、有機物貯蔵能力を有する微生物を用いた下水処理の最適化や下水管内での下水浄化といった処理プロセスの研究、社会の持続可能性との関係からサステナビリティ教育や技術システムの持続可能性の評価といったマクロな方向への展開、また逆に、次世代シークエンサーを用いて環境浄化に関わる微生物生態系についての解析といった顕微鏡レベル、分子レベルの研究を行っています。

都市サステナビリティ学研究室

当研究室では、地球や地域のサステナビリティを対象に研究を進めています。研究は例えばアジアモンスーン地域における洪水と健康に与える気候変動の影響のようなグローバルな課題から、多様なステークホルダーが温室効果ガス削減に取り組む心理的メカニズムといった個人の意思決定プロセスに関するものまで様々なスケールに及んでいます。対象とする環境問題も気候変動を軸としつつも、資源や感染リスク、水処理など様々ですが、そうした中で、地域が抱える多面的な課題を同時に評価し、環境問題の解決のみならず、いかにそのほかの地域課題を解決していくかということを常に念頭に置き研究を進めています。



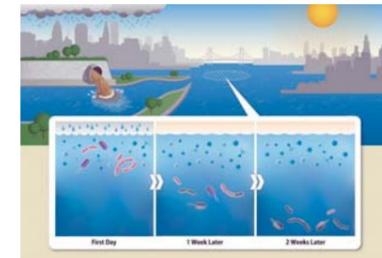
気候変動適応に向けた地域ステークホルダーへのインタビュー調査



飲食空間における感染リスクシミュレーション

都市衛生工学研究室

水系感染症は途上国の問題として捉えられがちですが、先進国においても十分に安全な水を供給することは容易でない状況です。水中の病原微生物は、水道及び下水道において、今なお重要な課題という認識のもと、都市衛生工学研究室では、水中のウイルスを中心に、水道、水環境、下水などを俯瞰して病原微生物の生活環を把握し、環境工学を通じて都市の微生物学的安全性を確立することを目指しています。

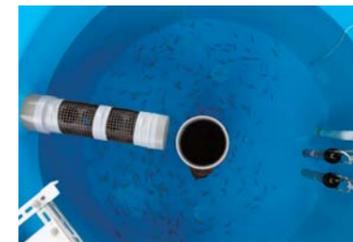


水環境における病原微生物の消長



低人口密度地域の無人膜ろ過浄水施設

下水道システムイノベーション研究室



下水処理水による鮎の陸上養殖実験(東京都・砂町水再生センター)



産・官・学そして市民との連携拠点

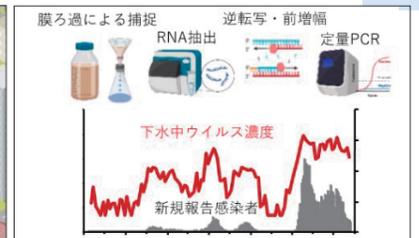
これからの日本の下水道システムは水やエネルギーなどの地域資源の循環に貢献することが求められています。2020年4月に開設された下水道システムイノベーション研究室では、社会ニーズに対応した、下水処理水や汚泥等の再利用技術、省エネ技術、AI技術、新素材等を活用した新たな下水道システムの構築に向けた研究を行います。また、下水道システムを活用した地域振興、官民連携や水ビジネスについても研究することとします。

国際下水疫学研究室

下水疫学調査は、感染者から排出されたウイルス等の病原体が下水処理場に集積するという下水道インフラの特性をうまく活用した公衆衛生情報取得手段であり、感染症発生の早期検知と感染動向把握のためのツールとして社会的に期待と注目を集めています。2024年3月に発足した国際下水疫学研究室では、「下水疫学」という新たな学問分野を開拓するとともに、国内外での下水疫学調査の実装を通して感染症に強い社会の構築に貢献することを目指しています。



感染症に対し強靱な社会の構築に貢献する「下水疫学」のコンセプト



下水中ウイルスの高感度・高精度検出技術の開発



青木 公隆 特任助教

建築設計
都市デザイン
エリア再生



浅見 泰司 教授

空間情報解析
都市計画
都市住宅学



飯田 晶子 特任講師

都市生態学
緑地計画
ランドスケープデザイン



加藤 孝明 教授

地域安全システム学
減災・復興まちづくり
自然災害リスク評価
計画支援システム



小熊 久美子 教授

浄水技術
水供給システム
環境衛生工学



小貫 元治 准教授

サステナビリティ学
人口減少社会とインフラ
防災、技術と社会
サステナビリティ教育



風間しのぶ 准教授

環境ウイルス学
水環境工学
環境衛生工学



春日 郁朗 准教授

生物学的水処理
高度浄水処理
環境微生物工学



小泉 秀樹 教授

コラボラティブ・プランニング
まちづくり論
コミュニティ・デザイン



坂本 慧介 助教

人口減少時代の都市・緑地計画
都市・空間解析



貞広 幸雄 教授

都市解析
空間情報科学
地理情報システム



蕭 耕博 准教授

アジア都市空間論
ジェントリフィケーション論
参加型まちづくり



片山 浩之 教授

水質衛生工学
上水道工学
環境微生物工学



加藤 裕之 特任准教授

下水道システム
水環境政策・ビジネス
下水道資源利用



北島 正章 特任教授

環境ウイルス学
下水疫学
微生物リスク管理



栗栖 聖 准教授

環境配慮行動
親水空間評価
住民意識
リスクコミュニケーション



新 雄太 特任助教

建築設計・意匠
農村計画
まちづくり



瀬田 史彦 准教授

人口減少局面の
国土・地域・都市政策



高見 淳史 准教授

都市交通計画
交通と土地利用の統合的計画



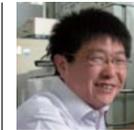
出口 敦 教授

都市再生
スマートシティ
エリアマネジメント



栗栖 太 教授

未規制汚染物質の監視と管理
環境微生物の挙動と機能の解析



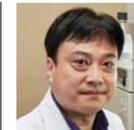
佐藤 弘泰 教授

生物学的廃水処理
微生物生態系解析
省エネルギー型好気性下水処理



サワンジャン ベンヤパ 特任助教

水供給システム
地下水管理
環境工学



珠坪 一晃 教授

適地型排水処理
嫌気性消化
技術評価と実装



中島 直人 教授

都市デザイン
都市論
都市計画史



中島 弘貴 特任講師

都市ガバナンス
リジェネラティブ・デザイン



永野 真義 助教

都市デザイン
空間デザイン
建築デザイン



西 颯人 特任講師

統計的都市解析
空間統計解析
住宅・不動産市場分析



滝沢 智 教授

都市水システム
都市域の地下水管理
浄水技術



飛野 智宏 准教授

環境微生物工学
生物学的排水処理
微生物群集解析



鳥居 将太郎 助教

消毒技術
環境ウイルス学
病原微生物



中島 典之 教授

生態毒性学
都市雨水管理
環境水質化学



似内 遼一 助教

高齢社会対応
地域計画
エンパワメント



パラディ ジャンカルロス 講師

都市交通計画
交通行動分析
社会的ネットワーク



樋野 公宏 准教授

居住セキュリティ
都市居住・住環境



廣井 悠 教授

都市防災
自然災害リスク



中谷 隼 准教授

ライフサイクル評価
物質フロー分析
リサイクルシステム



橋本 崇史 准教授

浄水処理技術
アジア地域の水システム



林 徹 助教

環境政策
温室効果ガス排出量評価
エネルギー化学



ファミ ピエットズン 特任助教

下水道システム
水産・農業における下水道資源の再利用
環境リスク評価



別所 あかね 助教

包摂都市論
都市農業
多文化共生
ノーマライゼーション



真鍋 陸太郎 准教授

都市の情報
ICTとまちづくり
都市計画・まちづくりを伝える



村山 顕人 准教授

環境負荷低減・減災に向けた都市計画
計画策定技法



山崎 嵩拓 特任講師

ランドスケープ計画



福士 謙介 教授

国際環境
健康リスク



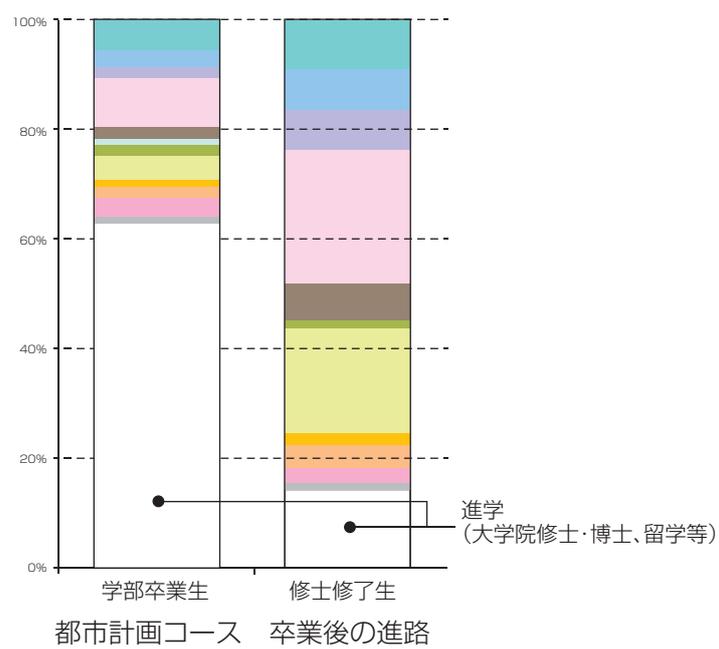
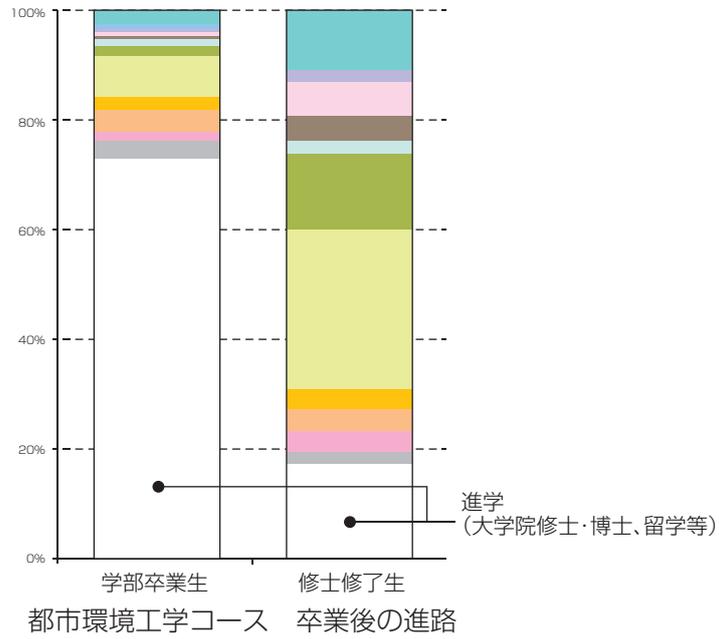
藤田 壮 教授

脱炭素地域シナリオ
SDGs未来都市
都市産業共生システム



リュウ ミヤオミヤオ 特任助教

環境微生物学
下水疫学
水処理技術



- 国家公務員 (海外を含む)
- 金属・重工・メーカー
- 地方公務員 (海外を含む)
- コンサルタント・シンクタンク
- 独立行政法人・財団法人など
- 商社
- 建設・設計・不動産
- 金融・保険
- 運輸
- 通信・IT・メディア・広告
- 電気・ガス・エネルギー
- その他 (NPO、法律、自営業他)

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻
 東京大学工学部都市工学科

〒113-8656 東京都文京区本郷 7-3-1
 TEL:03-5841-6216 FAX:03-5841-0370
 www.due.t.u-tokyo.ac.jp

